

すずがも通信

No.1



1980.2.10(隔月刊)

行徳野鳥観察舎友の会会報

振替口座/仙台6129

巻頭言

野鳥保護区の機能について

行徳野鳥観察舎は、昨年12月26日に開館しました。訪館者の数は、1ヶ月たった1月26日に、早くも1万人を越しました。

私たちは、行徳野鳥保護区の役割には、大きく分けて、①野鳥保護区としての本来の役割、②観察舎が果たす社会教育的役割、があると思います。施設が大きくなってしまっても、管理体制がととのはなくでは、2つの役割が十分に果たせるとはいえません。

今回、『朝日新聞』などで報道された傷病鳥問題も、千葉県・市川市側が、新観察舎を今まで通りの人員で管理させようとしたことに原因があるとと思われます。友の会は、この問題について、高橋市川市長に面会し、事態の改善を要求しました。その結果、2月2日、市川市は、独自に2名の増員を決定しました。（経過については3頁参照）増員により、野鳥保護と社会教育の両面で、ある程度の前進が期待されます。これから経緯を見守ってゆきたいと思います。

行徳観察舎は、日本一の観察施設だといわれています。私たちは、施設だけではなく、野鳥の保護区としての内実がどうなっていることを望んでいます。鳥獣保護行政の進んだ諸外国の保護区とは、面積の上ではくらべることはできませんが、機能の上だけでも国際レベルに達してほしいものです。



行事案内



●定例観察会 保護区では、2月15日の繁殖終了の日から、日を追ってスズガモの数が少なくなります。3月になって暖い日が続くと、カモ類は巣を作つて北へ帰つてゆきます。冬鳥に代つて、旅鳥のシギ・チドリが何種類も通過してゆくのは、4月中旬以降です。4月の末には、夏鳥のオオヨシキリの鳴りも始まります。3月2日、16日、4月6日、20日の13:30に集合です。

●ゴイサギとコミミズクの飛び立ちを見る会 夕方、ダイサギやコサギやムクドリがねぐらに帰つてゆくのが見えます。それと入れ代りに、夜行性の鳥たちが林から飛び立ちます。ゴイサギやコミミズクです。コミミズクが見られるのは、この冬最後のチャンスかも知れません。前回は、3羽確認できました。3月2日観察舎閉館後、17:00に集合して下さい。

ある日の観察会

蓮尾純子

野鳥観察舎新館がオープンして、ちょうど1ヶ月。楽しいことがいくつか重なりました。その中から、まずその一。開館式(12月26日)以来、昨日までの利用者合計が9910名。1万人のお客様に記念品(図鑑とバッジ)をさしあげるにして、利用者名簿とにらめっこしていました。午後2時15分、浦安町の小学6年生、伊東正久君が、ちょうど1万人目の署名をしてくれました。さっそく館内放送でみなさんにお知らせし、一諸に来られたお友達と記念撮影をして、1万人のお祝いをしました。その二。とつぱり日が暮れて、まつ暗になつた水路から、ギャアーッ、グワフツと、すさまじい声がひびいてきます。えさ台の魚のあらをねらつて、ゴイサギばかりか、大型のアオサギまで来ているようです。星がきれいに出て、明日も天気がよさそうです。

2(006)



行事案内



●植物観察会 登になりました。ガマやヨシが芽づいてきます。保護区の中の植物調査を続けておられる、市川学園教諭の石井信義先生を講師にお迎えしました。保護区の中には、どんな植物があるのでしょうか? 水中、水際、乾いた地面……植物は環境によって種類も異ります。植物について、色々教わりましょう。4月13日、10:00集合。解散は12:00頃です。

- ・保護区の中では静かに!
- ・ゴミ不法投棄は持つて帰ろう!
- ・野外行事は雨天中止です。

傷病鳥問題の経過報告



1月18日 朝日新聞山が、「病鳥悲し野鳥の園」という記事を掲載。

1月19日 亀谷代表ら会員有志が、市川市会議員である奥野万喜夫会員を通じ、高橋市長、浦田市助役と面会。市長は、①これまでの経過を見なおし、②人員増と蓮尾夫妻の正職員化を考え、③保護区の管理体制を検討すると約束。

2月2日 亀谷代表ら会員有志が、再び奥野議員とともに、

浦田市助役、白井経済部長と面会。市側は、千葉県からの予算を待たずして、①担当課を経済部農水産課に移す。(従来は郡市部公園緑地課)②市職員2人増員した。③傷病鳥施設の拡大も考えたい由説明。

2月5日 市職員の渡井さん浅野さん(予定)のお二人着任。

——傷病鳥問題をきっかけに、反の会と市川市との間で以上の交渉がなされました。

3(007)



ジュニアのコーナー

● 5年7組野鳥クラス

12月の開館以来、ひんぱんに観察舎を訪れる少年たちがいる。清水大悟君、千葉陽一君、新田真君、粕谷紀夫君、佐藤紀男君ら新浜小5年7組の子供たちだ。学校新聞の『しら』、『き新聞』にも野鳥コーナーをもうけ、「野鳥の会」もつくったといふ。これから活動は未定だが、鳥の仲間を増やしていくことを意欲的だ。反の会入会後は観察舎の仕事を積極的に手伝っている。将来が楽しみなジュニアたちである。

ジュニアの 野鳥質問箱

答える人——どうもんおじさん

質問——カモのオスはきれいなのにメスはなぜじみな色をしているのですか?

答え——メスは子供を育てるので、敵にみつからないよう、めだたない姿をしています。冬から春にかけてカモは黒いになります。そのとき、

メスがオスを選ります。メスの目につきやすいようにオスはきかせるのです。そのオスも北国から日本にくるころはメスと同じ、めだたない姿になっています。それをカモのエクリプスといいます。今年の秋には気をつけて見ましょう。

●運営会議について――

日時／2月17日 18:30～

場所／観察舎前集合

議題／事務の分担など。

●友の会の口座がごきましに郵便貯金「仙台-6129」行徳野鳥観察舎

●水路の問題について――前

号で、市川市に申し「行徳野鳥観察舎ごい水路の環境保全について」陳情した由書きました。1月末、市議会でこれに関する案件が可決されました。今後の推移を見守りましょう。

●編集後記――本号の編集で深夜に及ぶこと三晩。本業で先日創刊した雑誌より大変であったとか? 田久保印刷さん過ごすみません。(ドブハジ)